

第5期（平成30年3月期）決算公告

平成30年6月25日

東京都品川区東品川一丁目39番9号
株式会社 アトラス
代表取締役社長 野本章

事 業 概 況

〔 自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日 〕

事業の経過及びその成果 事業の状況

エンタテインメントコンテンツ事業を取り巻く環境におきましては、スマートデバイス向けなどのデジタルゲーム市場において、国内におけるスマートフォン普及の鈍化、及び有力パブリッシャーの優位性が増していることから、より品質の高いコンテンツの供給が求められており、開発期間の長期化や運営費用が増加傾向にあります。一方、海外におきましては、アジアを中心に今後の成長が期待されております。

パッケージゲーム市場におきましては、家庭用ゲーム機の普及による今後の市場拡大に期待が高まっております。PC 向けゲーム市場では、Steam 等のゲーム配信プラットフォームが拡大傾向にあります。

このような経営環境のもと、当社は主力パッケージゲームタイトルの発売、音楽事業、ライセンス事業に注力し、業績は好調に推移しました。

パッケージゲーム事業においては平成 28 年 9 月に国内で発売した『ペルソナ 5』は引き続きリピートを受注し、平成 29 年 4 月に発売した欧米地域版と合わせ、全世界累計で 220 万本の販売にいたしました。また、

◇真・女神転生 DEEP STRANGE JOURNEY

◇世界樹と不思議のダンジョン 2

◇ラジアントヒストリア パーフェクトクロノロジー

◇ドラゴンズクラウン・プロ

を発売し、販売数は好調、加えて作品のクオリティへの高い評価をいただき、パッケージゲーム事業全体として、当初の計画を大きく上回りました。

音楽事業・ライセンス事業においては、『「ペルソナ 5」 オリジナル・サウンドトラック』の発売、音楽ライブでは、『PERSONA SUPER LIVE P-SOUND BOMB !!!! 2017』、『世界樹の迷宮 10th Anniversary LIVE』、『GAME SYMPHONY JAPAN 25th CONCERT 真・女神転生 生誕 25 周年祭』、『真・女神転生 生誕 25 周年 LIVE』などを開催し、好評を博しています。

また、当社の中期経営計画に沿い、「新規 I P (Intellectual Property: キャラクターなどの知的財産) の創出・育成」のため、平成 28 年に立ち上げた新規 I P に専念する新しい組織にて引き続き開発を行い順調に推移しております。

このような事業活動の結果、当社単体の事業計画上の目標数値を大きく上回り、グループへの利益貢献を果たすことができました。

一方で、当社単体の損益は、平成 25 年 11 月の株式会社インデックスから株式会社セガドリーム（現当社）への事業譲渡に起因し発生した営業権を毎期償却しているなどの影響もあり、平成 30 年 3 月期は損失計上をしておりますが、セガサミーグループの連結決算におきまして収益面で大きく寄与をしております。またバランスシートでは、自己資本比率が 95.4%、流動比率が 923.5%と財務面の健全性も高い水準を維持しております。

今後もお客様の喜んでいただけるゲームタイトルを開発し、グループ業績にも貢献し続けていくことが当社の使命だと考えております。

貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	5,345,387	流動負債	578,809
現金及び預金	101,026	買掛金	147,960
売掛金	123,140	未払金	124,700
仕掛品	3,097,624	未払費用	66,824
未収入金	502,898	未払法人税等	2,654
前払費用	32,845	預り金	30,722
関係会社預け金	1,018,090	資産除去債務	64,800
敷金及び保証金	73,193	賞与引当金	141,146
繰延税金資産	240,961		
その他流動資産	155,606	固定負債	7,352
		繰延税金負債	7,352
固定資産	7,293,274		
有形固定資産	73,128		
建物	59,369		
工具器具及び備品	13,759		
		負債合計	586,162
無形固定資産	5,899,059	(純資産の部)	
ソフトウェア	2,744	株主資本	12,052,499
のれん	5,896,315	資本金	10,000
		利益剰余金	12,042,499
投資その他の資産	1,321,086	その他利益剰余金	12,042,499
関係会社株式	1,300,000	繰越利益剰余金	12,042,499
敷金及び保証金	6,786	(うち当期純損失)	(686,660)
繰延税金資産	9,696		
その他投資等	4,604		
		純資産合計	12,052,499
資産合計	12,638,661	負債・純資産合計	12,638,661

株主資本等変動計算書

〔 自 平成29年4月 1日
至 平成30年3月31日 〕

(単位：千円)

	株主資本								純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
前期末残高	10,000	-	-	-	-	12,729,160	12,729,160	12,739,160	12,739,160
当事業年度変動額									
当期純利益	-	-	-	-	-	△686,660	△686,660	△686,660	△686,660
当事業年度変動額合計	-	-	-	-	-	△686,660	△686,660	△686,660	△686,660
当期末残高	10,000	-	-	-	-	12,042,499	12,042,499	12,052,499	12,052,499

個 別 注 記 表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

- ① 有価証券の評価基準及び評価方法
子会社株式及び関連会社株式…移動平均法による原価法
- ② たな卸資産の評価基準及び評価方法
個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 固定資産の減価償却の方法

- ① 有形固定資産
定額法によっております。
- ② 無形固定資産
定額法によっております。
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間である5年間の定額法によっております。

(3) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、効果の発現する期間を合理的に見積もり、その年数である10年間の定額法により償却を行っております。

(4) 重要な引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討して回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金
従業員の賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額の当事業年度の負担額を計上しております。

(5) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(6) 連結納税制度の適用

セガサミーホールディングス株式会社を連結親法人とした連結納税制度を適用しております。

(7) 会計上の見積りの変更に関する注記

当社の親会社であるセガサミーホールディングス株式会社は、平成29年3月31日開催の取締役会において、当社並びに首都圏に所在する一部のセガサミーグループの事業会社の本社を移転することを決議いたしました。これにより、前期末において、移転に伴い利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更いたしました。この変更により、従来の方法に比べて、当期の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ80百万円減少しております。

2. 株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の種類及び総数

種 類	発行済株式の数 (株)
普 通 株 式	10
計	10

3. 重要な後発事象

該当事項はありません。

4. その他の注記

該当事項はありません。

以上